# リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
あしや
市民活動
センター
リードあしや

記事
野谷和奏

# 店と人、想いを繋ぐ

## 「やさしいお店」展開、長谷さん

皆さんは「芦屋市みんなにやさしいお店」について知っていますか？　今回、その取り組みを進める芦屋市障がい福祉課の長谷啓弘さんに話を聞きました。

長谷さんは、障がいのある人たちから「市内のいろんなお店に行きたい！」という声を聞きました。その一方で、「自分の障がいに配慮してもらえるのかな…」などの不安の声もあったといいます。

そこで長谷さんが、お店の人たちに話を聞いてみると、「どのような配慮ができるかはわからないけれど、気軽に来てもらえれば嬉しい」と言われました。「実はお互いの気持ちは同じでした。だからこそ、その想いを繋ぐそんな取り組みができないかと考えました」。そうして生まれたのが「やさしいお店」です。

「やさしいお店」は、障がいのある人が来店したとき、配慮する気持ちがあればどこのお店でも登録できるそうです。他にも、簡易スロープや手すりを設置していたり、案内やメニューなどに音声、点字を使用していたりすることが挙げられます。

登録されたお店は、マークを掲示することになります。障害のある人はその掲示物のあるお店を安心して利用できるようになります。

長谷さんに障がいのある人の取り組みを進める上で難しいことを尋ねると「障がいを隠したい人、オープンにしている人がいることで意見が食い違うことがある」とのことでした。

新型コロナ禍で障がいのある人が作った授産品を販売する機会が減ったことがありました。そんな時「コープこうべの協力でその商品を販売できるようになり、市民の人たちに障がいのある人が地域で活躍していることを知ってもらう機会ができました」と連携の大切さを話していました。

最後に芦屋をどんな街にしたいか聞くと、長谷さんは「『障がい』のくくりを取り除き、みんなが意識せずに障がいのある人のことを考えられ、障がいのある人もない人も暮らしやすく、誰もが幸せになれる街に」と話していました。

## 誰もが幸せな街に

### 民間との連携で、取り組み進展も